

アカデミックフェス 事後レポート

企画名：医療と AI—多角的な視点から—

企画名（英語）：Medicine & Artificial Intelligence : An Analysis from a multilateral perspective

時 間：16：40～18：10

会 場：アカデミーコモン 2F ROOM-A（A3会議室）

登壇者：【司会】

安部博枝（明治大学自動運転社会総合研究所客員研究員）

【プレゼンター】

小西知世（明治大学 ELM 運営委員長）

萩原一郎（明治大学研究・知財戦略機構特任教授）

吉田直可（明治大学自動運転社会総合研究所客員研究員）

廣井直樹（東邦大学医学部医学教育センター）

【指定発言】

桑原直行（対馬市医療統括官）

鈴木利廣（明治大学学長特任補佐）

開催概要：

指数関数的な加速度を示しつつ進歩を遂げている近年のテクノロジー。その象徴と言えるものが、AI です。今日、AI は医学・医療の分野における様々な問題を解決するための現実的な手段として期待されています。本フォーラムでは、今後 AI は医療にどのように関わり、そして医療はどのように変わるのか。最先端の内容にも立ち入りつつ、参加者とともに多角的な観点から考えてみたいと思います。

開催概要（英語）：

Recent technology—that is progressing while showing exponential acceleration. AI is that symbol. Today, AI is expected as a practical means to solve various problems in the medical fields. In this forum, we want to think from a multilateral perspective with participants how will AI relate to medical care in the future, and how will medical treatment change.

開催内容：

本フォーラムは、ミニシンポジウム形式をとり、医療の場に否応なく押し寄せてきている AI の波を目の前にして、AI は医療にどのように関わってくるのか、そして医療はどのように変わるのかなどの問題につき、最先端の内容にも

立ち入りつつ、参加者とともに多角的な観点から考えたものである。

企画は、まずコーディネーターである小西が最初に企画趣旨を説明し、続いて萩原一郎が「医療の現状と課題」、吉田直可「個人情報利活用の関係性について」と題する報告をそれぞれ行った。その後、廣井直樹が「人工知能（AI）時代に求められる医学教育とは？」と題する報告を行い、小西・萩原・吉田・廣井の4名によるパネル討論へと移行した。なお、パネル討論においては、桑原直行・鈴木利廣両名の指定発言はもちろんであるが、土屋恵一郎明治大学学長のコメントおよび参加者からの質問等があった。

本フォーラムは、開始時間が遅かったにもかかわらず会場は概ね満席となり、参加者も学内関係者よりも学外者が目立つものであった（後日の関係各所からの報告によれば医療関係者や技術関係者が多数参加していた模様である）。その意味では、アカデミックフェス告知用のWebサイトはもとより、ELMが独自に作成し医学図書館などを中心に配布したフライヤーやELMのWebサイト・Twitterを用いたPRにも、一定程度の効果があったものと推察される。パネルディスカッションも学術的に有意義な議論が展開され、途中、参加者から質問が示されるなど、時間延長せざるをえない程の盛り上がりを見せる状況となった（企画終了後もプレゼンターに対する質問・意見交換等が個別に展開されていた）。その限りにおいて本企画は成功であったと評価することが可能であるが、各プレゼンターの報告にて、時間不足により途中で内容を省略するなどの状況が発生してしまったことから、時間の見積りが当初想定していたよりも甘かったと考えられる側面もあったことは否めない結果となってしまった。

以上、本フォーラムは、ひとまずは、当初、目的としていた役割を達成することができたと思われることから、コーディネーターとしては、不首尾な面が多々あったものの概ね成功裏に終えることができたのではないかと考えている。

もっとも、現在の政策状況を俯瞰する限り、今後もこの医療AIの動向に注視し、しかるべき検討や対応をすべき必要がある。それゆえに、この社会現象に対して、今回で終わりとするのではなく、明治大学ELMはもちろんのこと、明治大学自体がどのように対峙していくのか、という点が課題として残されたと言ふべきであろう。

なお、以下においては、明治大学ELM運営委員長個人としての見解を簡単に示しておきたい。

このアカデミックフェスは、ELMにとってもその存在・活動を対外的に直接PRすることができるいい機会であると考えている（これは、今年度、実際

にコーディネーターとして携わった結果の印象でもある)。本企画が今後も継続的に実施されるのであれば、今後も ELM として継続的に参加を検討したいと思う(もっとも、参加如何はもとより、毎年参加あるいは隔年参加するかどうか等、運営委員会の議を通さねばならないが……)。

最後に、この企画に携わった関係各位全員に謝意を示しておきたいと思う。ありがとうございました。

以 上